

横浜冷凍株式会社 証券コード2874

第75期(2022年9月期第2四半期)
決算説明会



目次 – Table of Contents

I. 2022年9月期 第2四半期 決算サマリー 連結決算ハイライト

1. 連結業績ハイライト
2. 業績進捗状況
3. トピックス

II. 2022年9月期 第2四半期 決算実績

1. 連結損益計算書
2. 営業利益分析
3. 比較貸借対照表の増減
4. キャッシュフロー計算書
5. セグメント別概要
6. 株主還元の様況

III. SDGsへの取り組み

IV. 2022年9月期 通期業績予想

V. 中期経営計画

VI. Appendix

- ・ 会社概要
- ・ 食品販売事業 国内拠点一覧

I . 2022年9月期 第2四半期 決算サマリー

FY2022 2Q Summary

1. 2022年9月期 第2四半期 連結業績ハイライト

業績のポイント

第2四半期、通期の業績予想を上方修正

- 各セグメントごとの施策が効果を発揮し、利益面で予想を上回る進捗に
- 冷蔵倉庫事業では在庫量、出庫量回復。食品販売事業では水産品が国内外で好調

売上高 **548**億円
前年同期比 **+2.3%**

- 冷蔵倉庫事業 取扱量が増加し、+4.9%と増収
- 食品販売事業 利益重視の方針により、売上高は+1.4%前年同期並み

営業利益 **24**億円
前年同期比 **+30.4%**

- 冷蔵倉庫事業 在庫量、出庫量、在庫数量は前年同期を上回る。「複合型マルチ物流サービス」をはじめ営業努力が奏功
- 食品販売事業 水産品は輸出拡大 前期竣工した気仙沼SSⅡとの相乗効果。国内においても量販店を中心に販売を強化

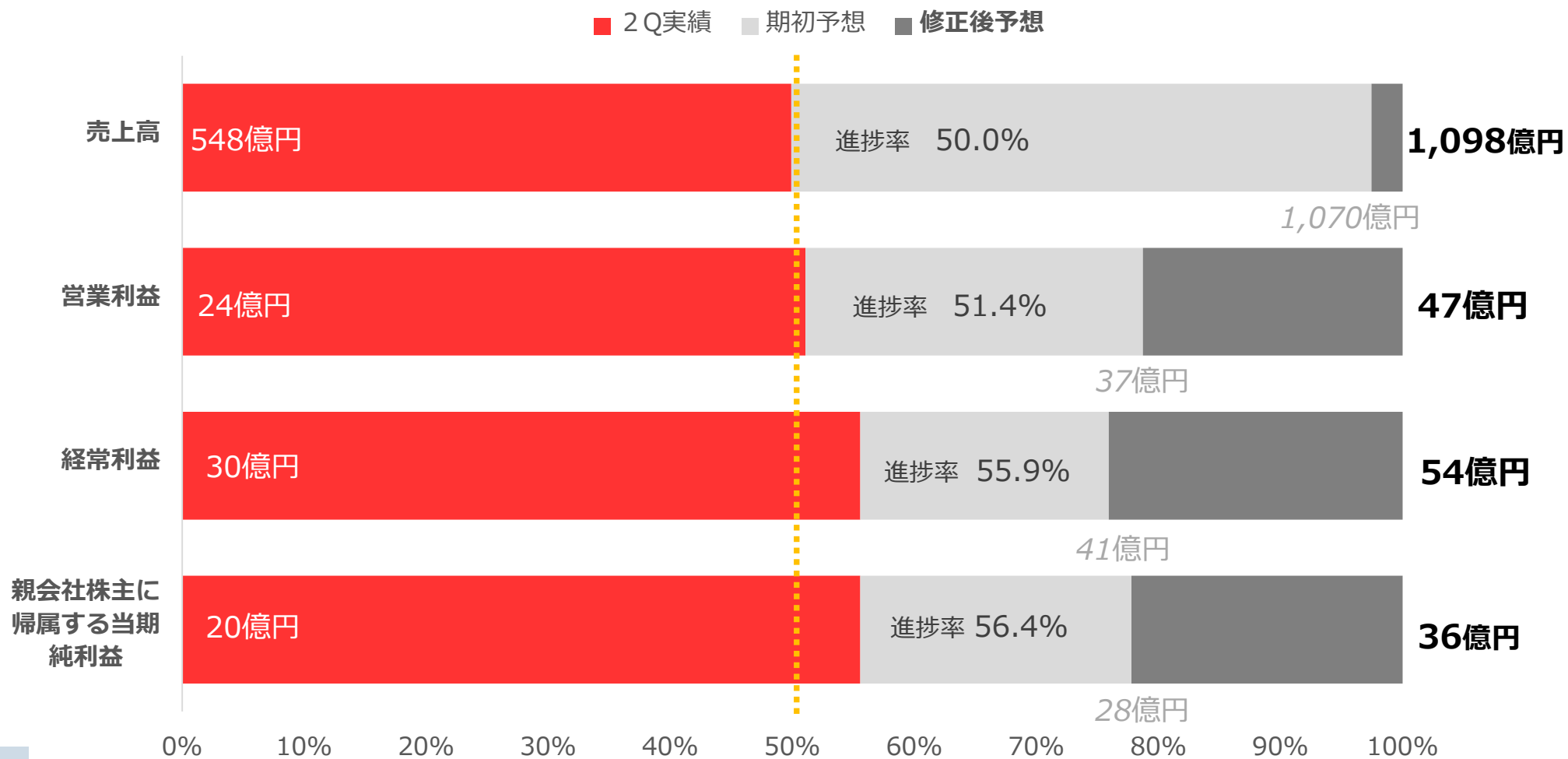
直近の業界動向に関するポイント

資源価格高騰による物価上昇

- 冷蔵倉庫事業 電気料負担が増加
- 食品販売事業 商品単価上昇

2. 2022年9月期 第2四半期 通期進捗状況

- 売上高、各利益とも予想を上回って進捗。業績予想を上方修正
- 引き続き堅調に推移し、下期も好調に進む想定



3. 2022年9月期 第2四半期 トピックス

首都圏の東の拠点になる
新たな冷蔵倉庫の着工



北海道の物流拠点に
新たな冷蔵倉庫の着工



新たな水産資源調達ルート確保
に向けた取り組みを開始



千葉リサーチパーク
物流センター着工
(30,475t)

2021年10月

圏央道に続く東関東自動車道沿いに冷蔵倉庫を着工
圏央道沿いにはすでに6か所14万トンの冷蔵倉庫を展開、当拠点により首都圏から北関東までをカバーする広域物流ネットワーク完成

恵庭スマート
物流センター着工
(30,543t)

2021年10月

北海道恵庭市にて冷蔵倉庫を着工
北海道の気候を活かし、冬季には外気を利用した温度管理が可能で温暖化にも対応
2023年5月竣工予定

茨城県と養殖産業創出に向けた
連携協定を締結

2022年3月

茨城県でのマサバ養殖の事業化への可能性を検証
これまでのマサバ、養殖魚の流通ノウハウを活かし収益化を目指す

Ⅱ. 2022年9月期 第2四半期 決算実績

Financial Summary for FY2022 2Q

1. 連結損益計算書

- 営業利益、経常利益、四半期純利益は期初予想を大幅に上回り着地
- 業績予想を上方修正 下期も引き続き堅調に推移

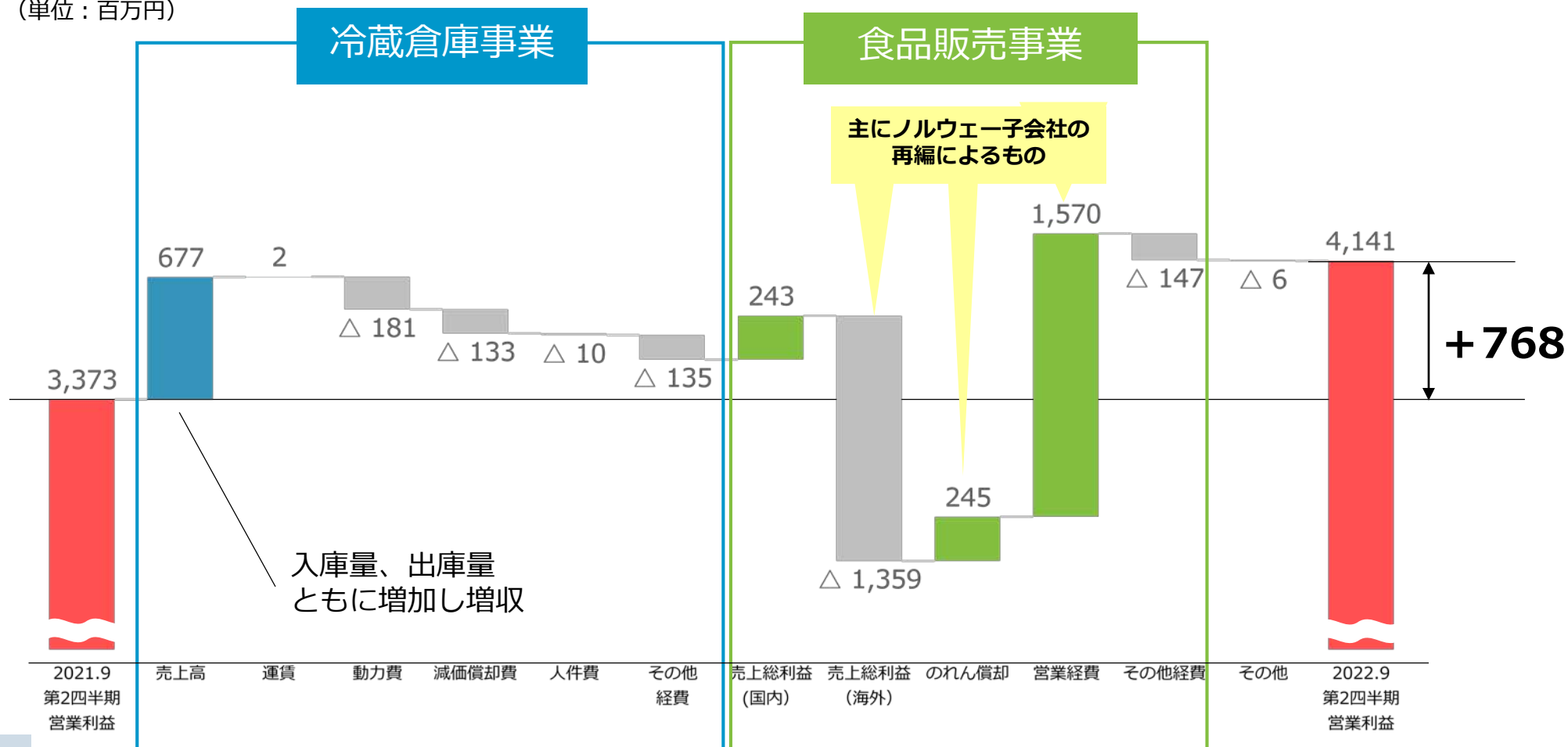
(単位:百万円)	21/09期 第2四半期	22/09期 第2四半期	前年同期比		ご参考：22/09期 第2四半期期初予想 (21年11月12日公表)
			増減額	増減率	
売上高	53,675	54,889	1,213	2.3%	51,000
営業利益	1,854	2,417	563	30.4%	1,600
経常利益	2,348	3,018	669	28.5%	1,700
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,345	2,032	686	51.1%	1,200
設備投資額	7,927	3,156	▲4,770	▲60.2%	—
減価償却費	3,248	3,134	▲114	▲3.5%	—
E B I T D A	5,102	5,551	449	8.8%	—
営業利益率	3.5%	4.4%	0.9P	25.7%	—
自己資本比率	43.4%	48.0%	4.6P	10.6%	—

2. 営業利益分析

- 冷蔵倉庫事業と食品販売事業がともに増収増益
調整前営業利益は、前年同期比で**+768百万円の増益**

* 調整前営業利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前

(単位：百万円)



3.比較貸借対照表の増減（連結）

- 資産はノルウェー養殖事業再編に伴い、のれん・海外事業ライセンス等が減少、投資有価証券が増加
- 負債はサステナビリティハイブリットボンドの発行により社債が100億円増加、借入金が増加

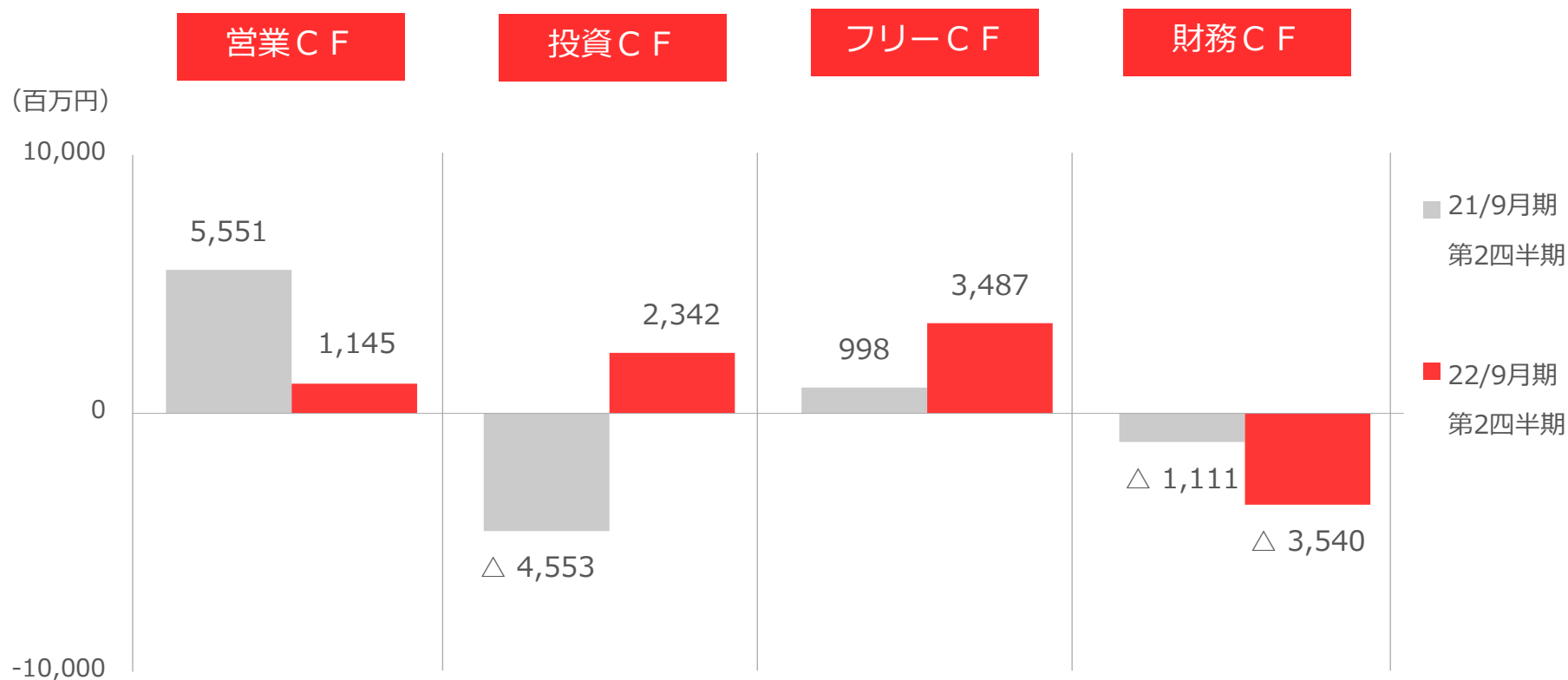
(単位:百万円)

資産	21/09期 第2四半期	22/09期 第2四半期	増減	負債・純資産	21/09期 第2四半期	22/09期 第2四半期	増減
流動資産	46,898	36,869	▲10,029	流動負債	39,469	24,992	▲14,477
売掛債権/商品	26,962	28,538	1,575	短期借入金	23,955	14,651	▲9,303
短期貸付金	13,377	4,158	▲9,219	固定負債	63,859	64,873	1,014
固定資産	139,846	138,174	▲1,672	長期借入金	37,922	31,863	▲6,058
有形固定資産	99,110	93,377	▲5,733	社債	20,000	30,000	10,000
無形固定資産	13,302	2,261	▲11,040	純資産	83,416	85,177	1,761
投資有価証券	23,111	38,326	15,215	株主資本	76,211	78,552	2,340
総資産	186,745	175,043	▲11,702	負債及び純資産	186,745	175,043	▲11,702

※：貸借対照表は季節性を考慮し、前第2四半期と比較しております。

4. キャッシュフロー計算書（連結）

- 営業キャッシュフロー：主に棚卸資産の増加により、前年同期比で減少
- 投資CF：主にノルウェー養殖事業再編による株式の売却により増加
- 財務CF：主に借入金の返済により減少



5.セグメント別概要

5.セグメント別概要

- 冷蔵倉庫事業：荷動きは回復傾向、「複合型マルチ物流サービス」などの営業努力奏功し取扱量が増加、増収増益
- 食品販売事業：水産品の輸出拡大と、国内においても量販店中心に事業品の販売を強化し、増収増益

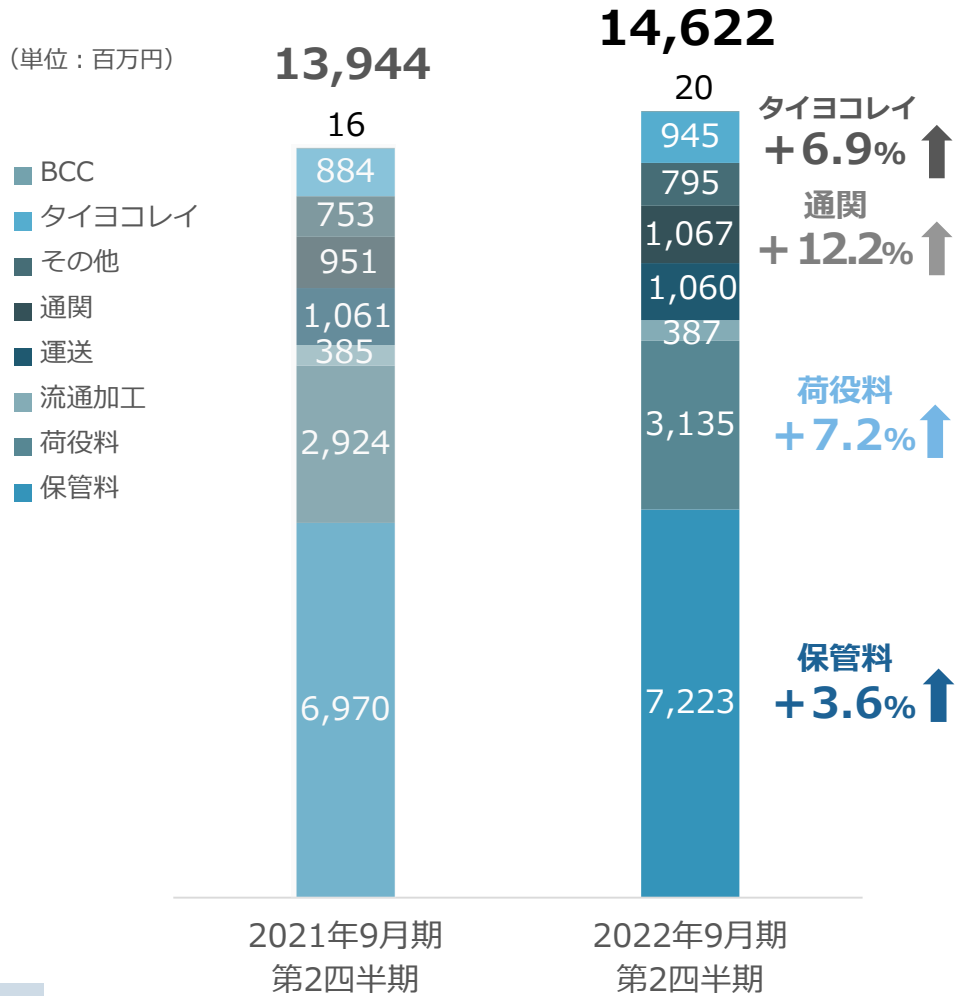
(単位:百万円)

	売上高				営業利益			
	21/9月期 第2四半期	22/9期 第2四半期	前年同期比		21/9月期 第2四半期	22/9期 第2四半期	前年同期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
冷蔵倉庫事業	13,944	14,622	+678	+4.9%	3,198	3,417	+219	+6.9%
食品販売事業	39,705	40,241	+536	+1.4%	143	697	+554	+387.2%
その他	25	25	+0	+0.0%	32	26	▲6	▲18.8%
合計	53,675	54,889	+1,214	+2.3%	3,373	4,141	+768	+22.8%

※ 各セグメントの営業利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です。

5. 冷蔵倉庫事業 <売上高分析>

- 新型コロナウイルスの影響はありつつも荷動きは回復傾向
- 在庫量、出庫量の増加により保管料、荷役料が増加 通関も堅調



Point.1

✓ 荷動き回復傾向で保管料・荷役料ともに前年同期比で増加
「複合型マルチ物流サービス」の営業努力が奏功

Point.2

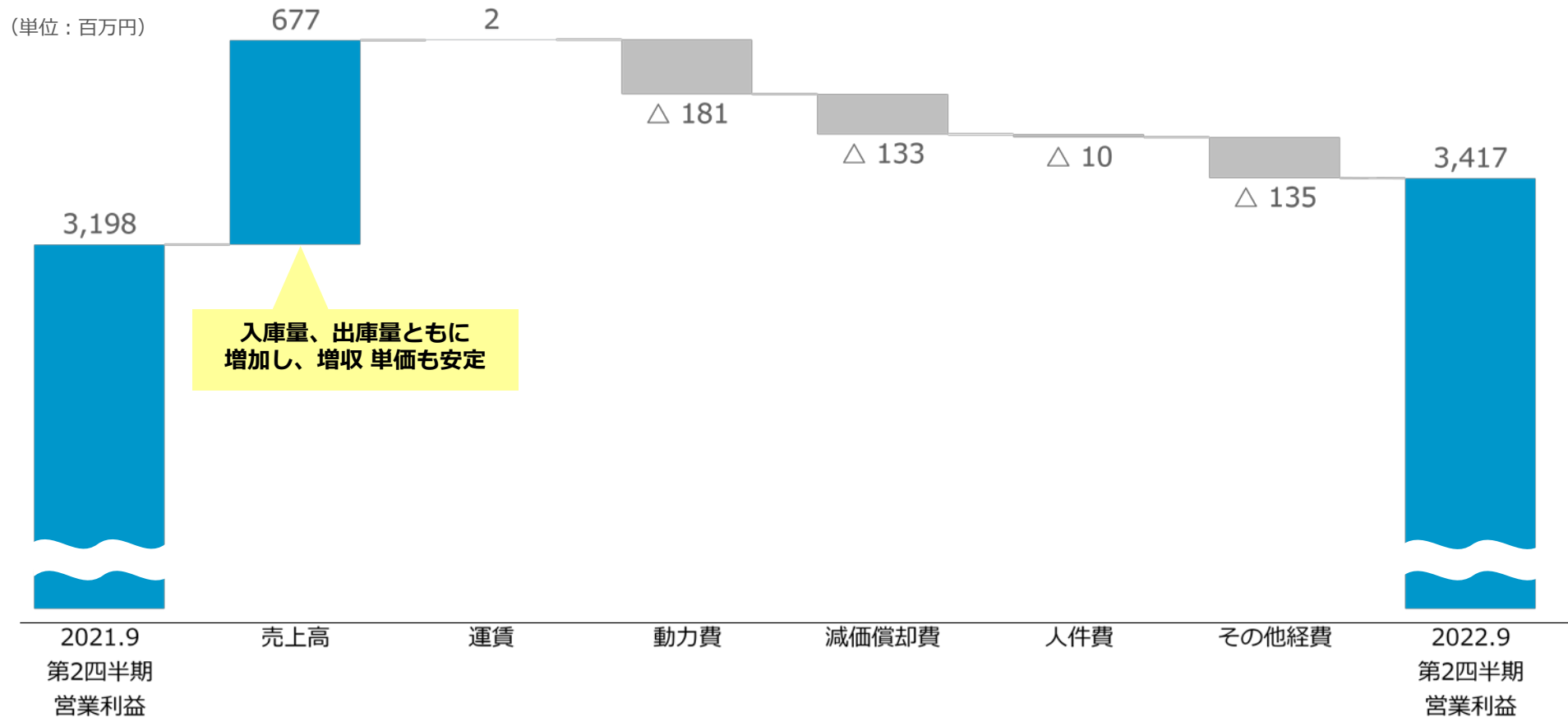
✓ タイヨコレイでも在庫量出庫量ともに上回り、前年同期比で+6.9%

Point.3

✓ 輸出入取扱い増加による通関の増加+12.2%

5. 冷蔵倉庫事業 <営業利益分析>

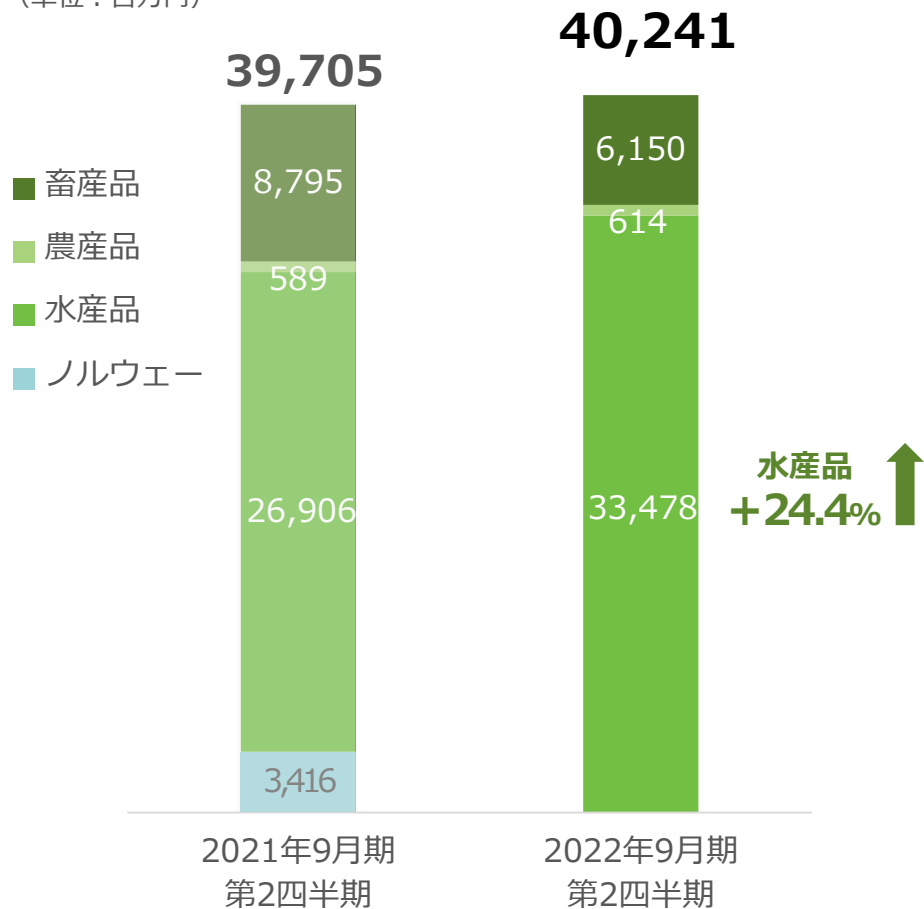
- 売上高は在庫量・出庫量ともに増加し利益増に貢献
- 荷動きは回復傾向で在庫量も増加し、引き続き堅調な推移を見込む



5. 食品販売事業 <売上高分析>

- 水産品は輸出拡大を進め、前年7月に竣工した気仙沼SSⅡとの相乗効果もありイワシ・サバ、またホタテ、魚卵の販売も大きく伸長
国内においても、ノルウェーサーモン等、事業品を量販店中心に販売を強化し、増収増益

(単位：百万円)



Point.1

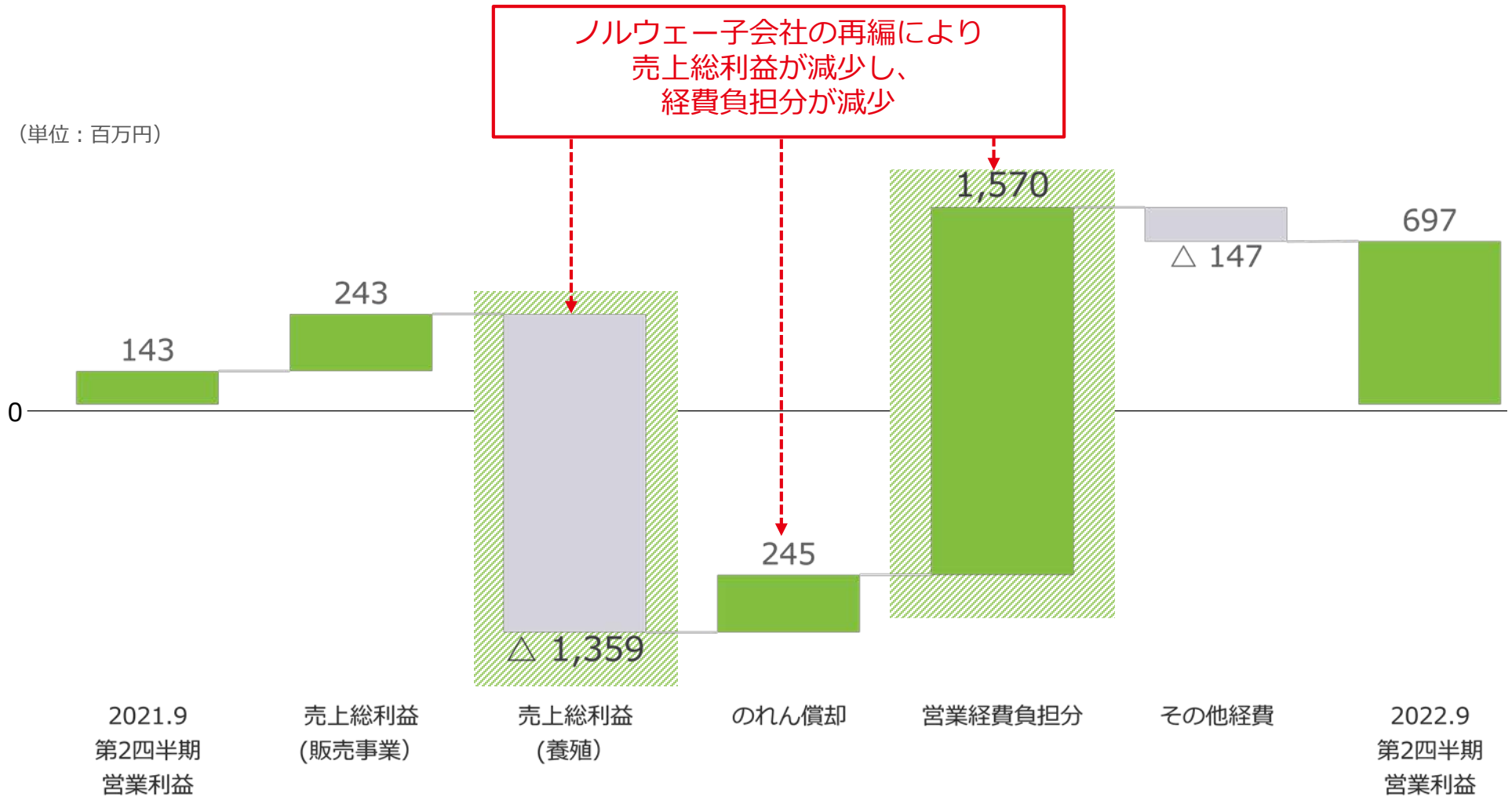
- ✓ 水産品は輸出拡大前年7月に竣工した気仙沼SSⅡとの相乗効果
国内はノルウェーサーモン等の販売を強化し、増収増益

Point.2

- ✓ 減少要因はノルウェー養殖事業再編、およびまん延防止等重点措置による畜産品の取扱い減少

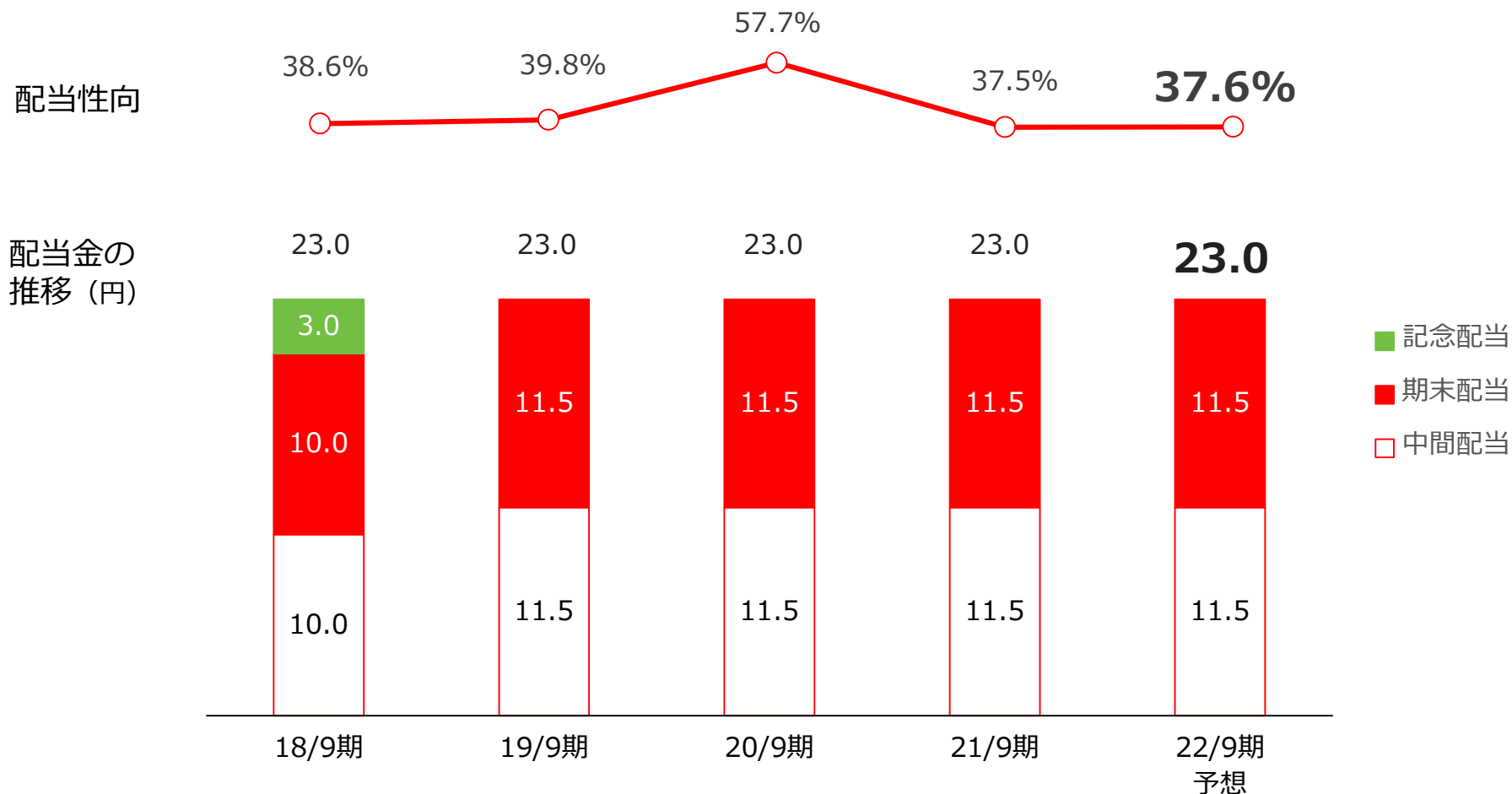
5. 食品販売事業 <営業利益分析>

- 販売事業は前年同期比で増益
- ノルウェー養殖事業の再編により売上総利益約14億円減少、営業経費約9億円減少



6.株主還元の様況

年間23円 ▶ 長期安定配当を実施



Ⅲ. SDGsへの取り組み

経営理念 「会社は社会の公器であり、利益は奉仕の尺度である」

SDGs Activities

SDGsへの取り組み

環境への取り組み



「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）」
の提言へ賛同を表明
「TCFDコンソーシアム」に加盟

気候変動をはじめとする環境問題への取り組みを積極的に推進

100%再生可能エネルギー電力



北海道地区の当社冷蔵倉庫を全て
100%再生可能エネルギー電力に切り替え

北海道で運営する全冷蔵倉庫6拠点、収容能力約14万トンで使用する電力を、100%再生可能エネルギー電力に切り替え、脱炭素化に向けた取り組みを更に推進

IV. 2022年9月期 通期業績予想

Earnings Forecast for FY2022

2022年9月期 通期業績予想

- 通期業績予想を修正
- 冷蔵倉庫事業では荷動きが回復し、食品販売事業では水産品と農産物好調

(単 位 : 億 円)		2021年9月期 通 期 実 績	2022年9月期 通 期 予 想	前 期 比	
				増 減 額	増 減 率
売上高	冷蔵倉庫事業	282	296	14	5.0%
	食品販売事業	824	801	△23	△2.8%
	売 上 高	1,107	1,098	△9	△0.8%
営業利益	冷蔵倉庫事業	59	67	8	13.6%
	食品販売事業	△3	13	16	—%
	配賦不能費用	31	34	3	9.7%
	営業利益 (営業利益率)	25 (2.3%)	47 (4.3%)	22 (2.0P)	88.0%
経 常 利 益 (経 常 利 益 率)		27 (2.5%)	54 (4.9%)	27 (2.4P)	100.0%
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益 (当 期 純 利 益 率)		36 (3.3%)	36 (3.3%)	△0 (△0.0P)	0.0%
減 価 償 却 費		66	61	△5	△7.6%

V. 中期経営計画

Medium-term Management Plan

中期経営計画の全体像

－ 全体方針及び事業別方針 －

中期経営計画 全体方針

創る力

冷蔵倉庫事業

〈事業別方針〉

経営環境の変化を先取りした事業モデルを**創造**、お客様へ新たな価値を提供する

食品販売事業

〈事業別方針〉

強みと絆を活かし、時代のニーズに適応した食の価値を**創出**する

経営基盤

グローバル化を支える人材を**創り**、企業価値向上に資する改革を絶え間なく推進

冷蔵倉庫事業（要約）

- 4つの重点施策

ひろげる

環境配慮型
物流センター

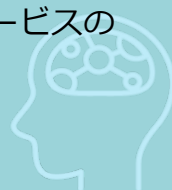
- [継続] 物流センター新設を軸とした戦略投資
- [加速] 再生可能エネルギーの活用
- [推進] 自然冷媒への切り替え



ふかめる

ヨコレイ品質

- オートメーション化の推進
- 社員オペレーションの深耕
- 独自の低温物流サービスの実現へ



のびす

国内事業の
新たな展開

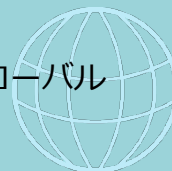
- 複合型センター運営
- 拠点新設による物流ネットワークの拡充
- PJベースで事業創出の機動性を確保



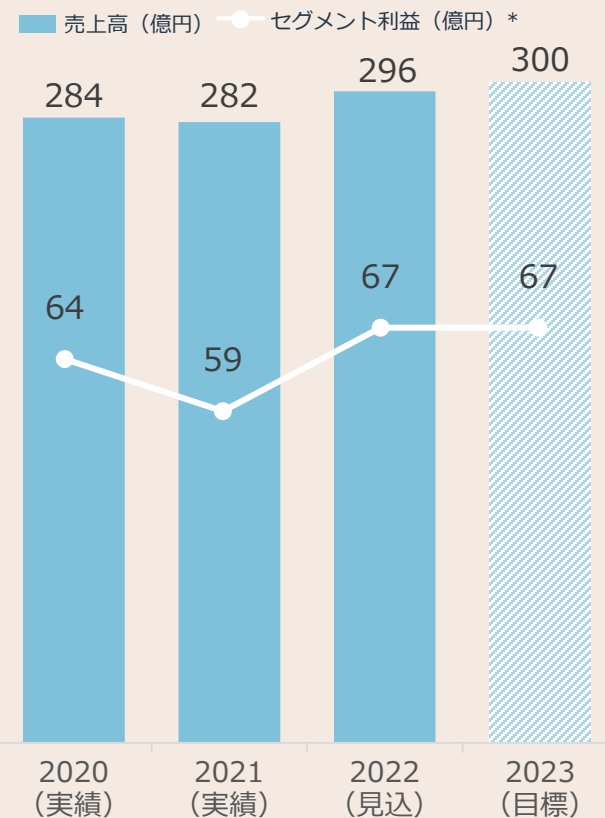
つなぐ

海外事業の拡張

- ASEANの拠点増による低温物流網の整備
- 専門人材の確保・育成による価値向上
- ヨコレイ品質のグローバル展開へ



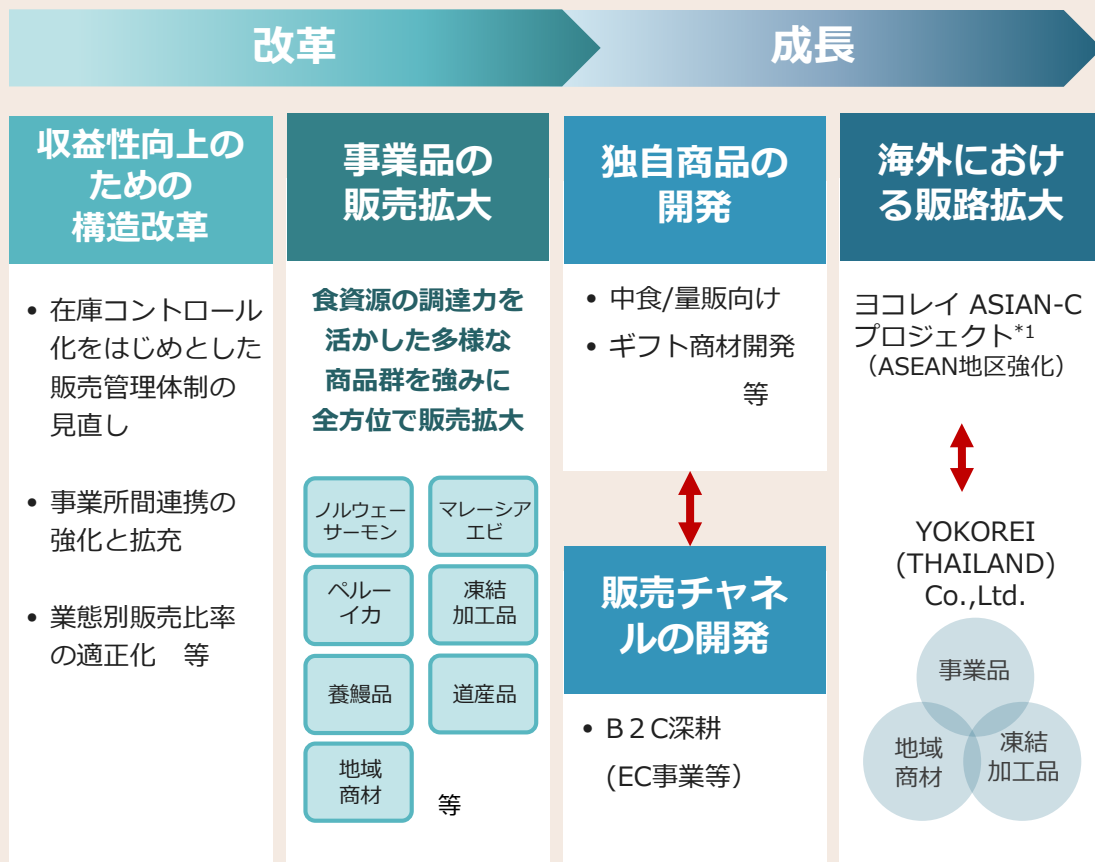
- 定量目標 事業別計画 (冷蔵倉庫)



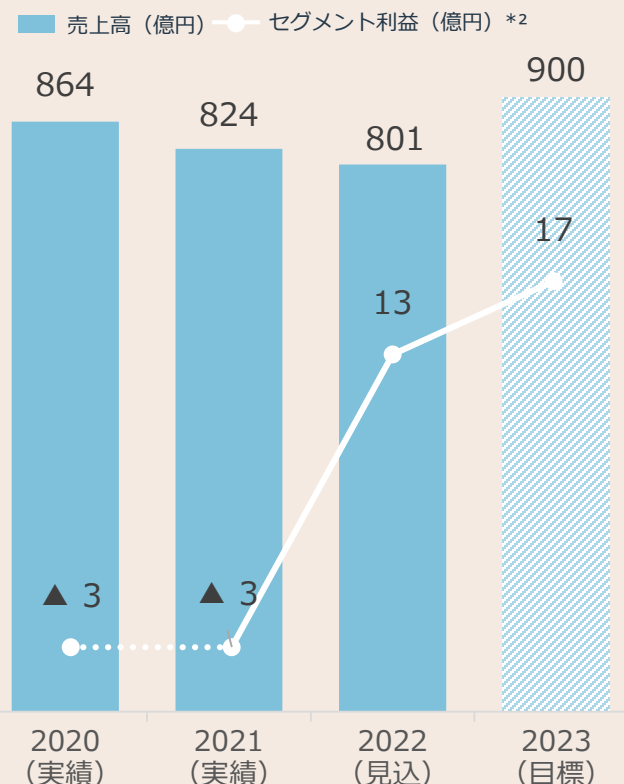
*セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前
2022年計画は新収益認識基準を考慮

食品販売事業（要約）

- 5つの改革・成長パッケージ



- 定量目標 — 事業別計画 (食品販売) —



*1 ASIAN-C プロジェクト：ASEAN市場分析と現地販売を加速化する戦略
 *2 セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前
 2022年計画は新収益認識基準を考慮

中期経営計画

(最終年度2023年9月期 定量目標 連結ベース)

売上高 ▶ 1,200億円 EBITDA ▶ 110億円
営業利益 ▶ 50億円 自己資本比率 ▶ 40%台半ばを維持

(単位:億円)	21/09期実績	22/09期見込	中計目標値 * 21/11/25修正
売上高	1,107	1,098	1,200
営業利益	25	47	50
E B I T D A	92	108	110
自己資本比率	45.7%	-%	40%台半ばを維持

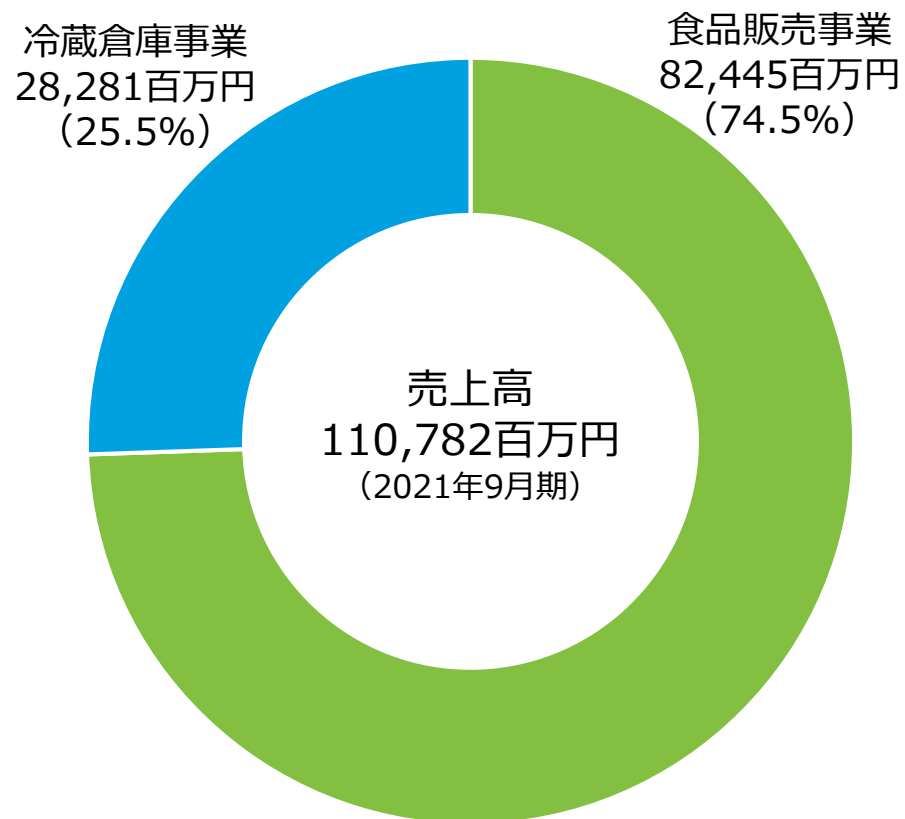
VI. Appendix

Source Book

会社概要

会社名	横浜冷凍株式会社
設立	1948年5月13日
所在地	横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号 みなとみらいグランドセントラルタワー7階
代表者	代表取締役会長 吉川 俊雄 代表取締役社長 松原 弘幸
事業内容	冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業 水産品の加工、販売並びに輸出入 農畜産物の加工、販売並びに輸出入 通関業 養殖業 製氷業 貨物利用運送事業並びに貨物自動車運送事業 不動産賃貸業 食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売
資本金	143億342万円(2021年9月末現在)
拠点	冷蔵倉庫事業： 物流センター・ソーティングスポット 国内：49箇所 海外：5箇所 通関事業：5箇所 食品販売事業：27箇所
連結子会社	海外2社（タイ）
従業員数	1,652名（2021/9月末）

売上構成



国内拠点



東京羽田物流センター
(冷蔵収納能力 21,091トン)



冷蔵倉庫事業

冷蔵倉庫	49拠点
冷蔵収容能力	約950,000トン

主要拠点

東京羽田物流センター	21,091トン
名港物流センター	22,356トン
つくば物流センター	24,725トン
福岡ISLAND CITY物流センター	32,265トン

通関事業

通関部	5拠点
-----	-----

国内拠点



気仙沼ソーティングスポットⅡ



食品販売事業

水産品	19拠点
畜産品	4拠点
農産品	1拠点
その他	3拠点

買参権

国内主要漁港
10か所で所有

- ・八戸
- ・女川
- ・塩釜
- ・佐世保
- ・長崎
- ・気仙沼
- ・石巻
- ・唐津
- ・松浦
- ・枕崎

環境への取り組み

ヨコレイの環境方針

ヨコレイグループは、「ひと、もの、地球にやさしい食品流通のエキスパート」として、持続可能な社会の実現に向け、地球環境の保全に取り組む責任があると認識しています
なかでも、気候変動は異常気象や自然災害を発生させる要因となり、ヨコレイグループの事業活動にとっても大きなリスクおよび機会となることから、気候変動対応をはじめとする環境保全対策を経営上の重要課題のひとつとして捉え、以下の行動指針に基づき、事業活動による環境への負荷軽減を図ってまいります

行動指針

行動指針環境保全に関する法令、条例、国際的な協定等を遵守します
省資源・省エネルギーを推進し、環境への負荷軽減に努めます
温室効果ガスの排出量削減に努めます

廃棄物の削減、リサイクル等による資源の再利用・有効利用を推進します
水資源の保全のため、適切な管理および使用量の削減に努めます
廃棄物の処理や化学物質の管理を適切に行い、環境汚染の防止に努めます

ヨコレイグループは、食資源を扱う企業として、生物多様性の保全に配慮したサプライチェーンを構築し、生態系への影響を最小限に抑えるよう努めます
社内広報・教育を通じてヨコレイグループの環境方針を周知し、社員一人ひとりの環境保護に対する意識の向上に努めます
環境に関する情報は、ヨコレイグループのウェブサイト等で積極的に開示を行います



自然冷媒の導入



グリーン経営認証の取得



太陽光発電システムの導入



環境配慮型屋上緑化システムの導入

資料集 冷蔵倉庫事業

業界比較 品目別入庫 (セグメント外取引含まず)

(単位:千トン)

品目別入庫実績		2021年9月期 第2四半期	2022年9月期 第2四半期	前年同期比	
				増減	増減率
水産品	ヨコレイ (シェア)	86 (8.6%)	97 (9.6%)	11 (1.0p)	12.8%
	日冷倉12都市	1,002	1,009	7	0.7%
畜産品	ヨコレイ (シェア)	236 (11.4%)	242 (11.5%)	6 (0.1p)	2.5%
	日冷倉12都市	2,072	2,112	40	1.9%
農産品	ヨコレイ (シェア)	91 (15.1%)	98 (16.6%)	7 (1.4p)	7.7%
	日冷倉12都市	602	592	▲10	▲1.7%
冷凍食品他	ヨコレイ (シェア)	242 (10.6%)	263 (11.1%)	21 (0.5p)	8.7%
	日冷倉12都市	2,293	2,377	84	3.7%
合計	ヨコレイ (シェア)	655 (11.0%)	700 (11.5%)	45 (0.5p)	6.9%
	日冷倉12都市	5,969	6,090	121	2.0%

資料集 冷蔵倉庫事業

主要品目別 入庫（セグメント外取引含まず）

（単位：トン）

主要品目別入庫	2021年9月期 第2四半期	2022年9月期 第2四半期	前 年 同 期 比	
			増 減	増 減 率
エ ビ	8,149	8,958	809	9.9%
サ ケ	13,057	11,287	△1,770	△13.6%
サ バ	7,646	8,125	479	6.3%
イワシ	3,031	3,954	923	30.5%
カ イ	3,255	6,203	2,948	90.6%
水産品計	86,332	97,375	11,043	12.8%
ポーク	58,930	53,652	△ 5,278	△9.0%
チキン	92,126	95,756	3,630	3.9%
ビーフ	25,813	27,098	1,285	5.0%
畜産品計	236,421	241,850	5,429	2.3%
イモ類	20,821	24,224	3,403	16.3%
果汁・ジュース	11,245	6,412	△ 4,833	△43.0%
農産品計	91,283	98,274	6,991	7.7%
冷凍食品他計	241,456	262,686	21,230	8.8%
合 計	655,492	700,185	44,693	6.8%

資料集 冷蔵倉庫事業

業界比較 品目別月末在庫累計（セグメント外取引含まず）

（単位:千トン）

品目別在庫累計		2021年9月期 第2四半期	2022年9月期 第2四半期	前年同期比	
				増減	増減率
水産品	ヨコレイ (シェア)	410 (13.3%)	420 (13.9%)	10 (0.6p)	2.4%
	日冷倉12都市	3,079	3,012	△67	△2.2%
畜産品	ヨコレイ (シェア)	607 (13.5%)	597 (14.0%)	△10 (0.5p)	△1.6%
	日冷倉12都市	4,488	4,256	△232	△5.2%
農産品	ヨコレイ (シェア)	507 (30.8%)	501 (32.8%)	△6 (2.0p)	△1.2%
	日冷倉12都市	1,648	1,527	△121	△7.3%
冷凍食品他	ヨコレイ (シェア)	290 (11.6%)	315 (12.1%)	25 (0.5p)	8.6%
	日冷倉12都市	2,506	2,603	97	3.9%
合計	ヨコレイ (シェア)	1,814 (15.5%)	1,833 (16.1%)	19 (0.6p)	1.0%
	日冷倉12都市	11,721	11,397	△324	△2.8%

資料集 食品販売事業

主要品目別 売上数量・金額・単価（連結ベース）

（単位：数量=トン・金額=百万円・単価=円）

主要品目	2021年9月期 第2四半期			2022年9月期 第2四半期			前年同期比		
	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
ポーク	12,067	5,868	486.3	6,821	3,161	463.4	△ 5,246	△2,708	△ 23
チキン	5,642	1,473	261.0	4,835	1,679	347.4	△ 807	207	86
ビーフ	1,527	1,396	914.2	1,517	1,230	810.7	△ 10	△166	△ 103
鮭 鱒	4,354	2,856	655.9	4,105	3,609	879.2	△ 249	753	223.3
ホタテ	1,764	2,284	1,294.9	3,136	3,626	1,156.2	1,372	1,342	△ 138.6
サバ	27,269	4,872	178.7	25,741	4,823	187.4	△1,528	△50	8.7
エビ	2,239	2,451	1,094.7	2,150	2,491	1,158.7	△ 89	40	64.1
カニ	588	1,653	2,811.4	607	2,844	4,685.2	19	1,191	1,873.8
イカ	5,752	2,142	372.4	8,138	2,660	326.8	2,386	518	△ 45.6
ホッケ	4,826	1,710	354.3	3,887	1,273	327.5	△ 939	△437	△ 26.8
ウナギ	542	1,393	2,569.2	497	1,481	2,979.0	△ 45	88	409.8

Memo

Memo

本資料に関する注意事項

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、
将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだもの
とご理解下さい。

お問い合わせ先

横浜冷凍株式会社

広報 I R 部

TEL: 045-210-0011

E-mail: info@yokorei.co.jp

URL : <https://www.yokorei.co.jp/>